

【今後のまちづくりについて】

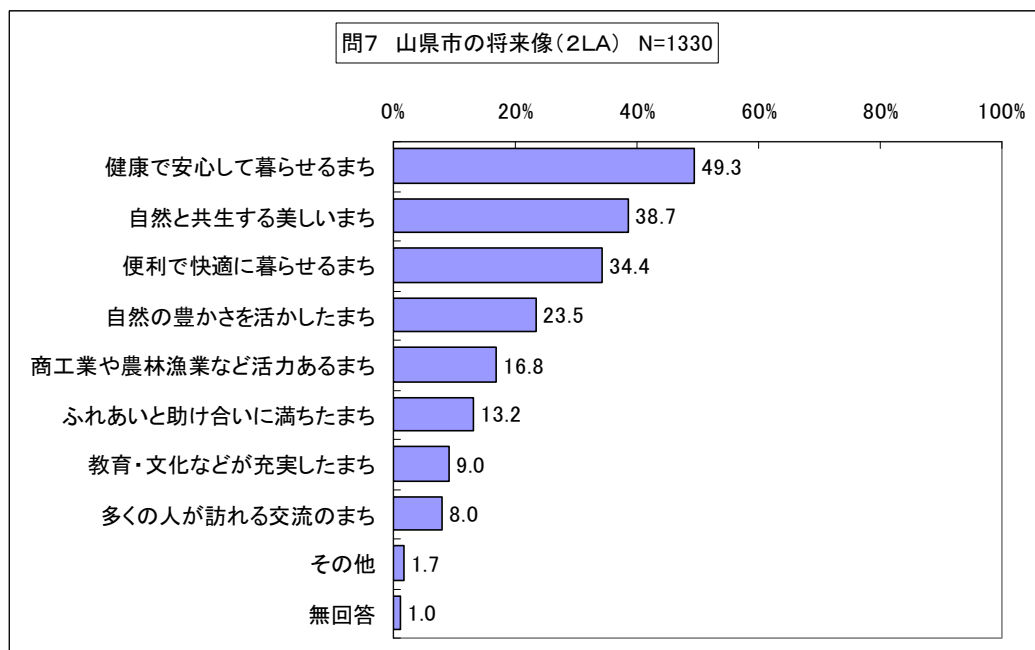
問7 山県市の将来像

あなたは、将来、山県市をどのようなまちにしていきたいと思いますか。次の中から2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

○ 望ましい将来の山県市は、自然を生かした“健やか・安らか・快適”なまち。

今後山県市をどのようなまちにしたいかでは、「健康で安心して暮らせるまち」が5割を占め、最も多くなっています。次いで「自然と共生する美しいまち」、「便利で快適に暮らせるまち」で、「教育・文化などが充実したまち」や「多くの人が訪れる交流のまち」は1割以下にとどまっています。

高齢化を反映してか、“健やか・やすらぎ”への期待が高く、前問との整合がみられます。また、“自然”や“利便性”など、自然に恵まれた大都市近郊という本市特性を生かした、暮らしやすいまちづくりへの期待がうかがえます。



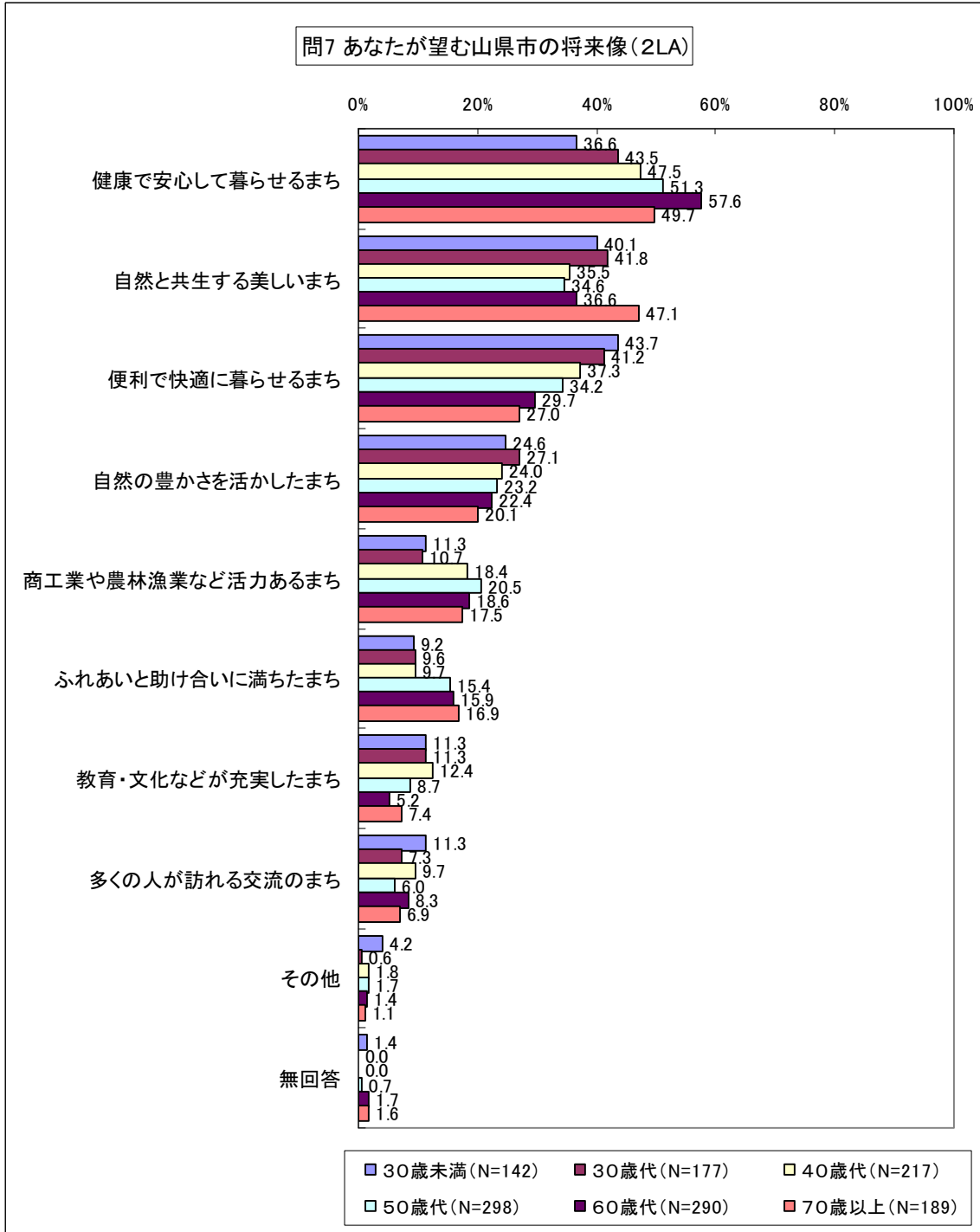
〈その他〉

- 公務員、議員など特権階級意識を持たない市。
- 子どもなど育てやすい環境（教育、遊べる場）
- すべてがそろったまち
- 高齢者を大切にするまち
- 地区の状況に応じた開発
- 伝統文化、歴史、教育改革（道徳教育）重んじるまち
- テーマパーク的なまち
- 活力ある産業のまち
- 若い世代の多いまち
- 税の負担の少ないまち
- 山県市の名物がほしい
- 自然の形態を残した河川整備
- みんなが楽しめるまち（ちょっとした遊び場など）
- 職員や議員も最小限に抑えた省力化したまち

<年齢別>

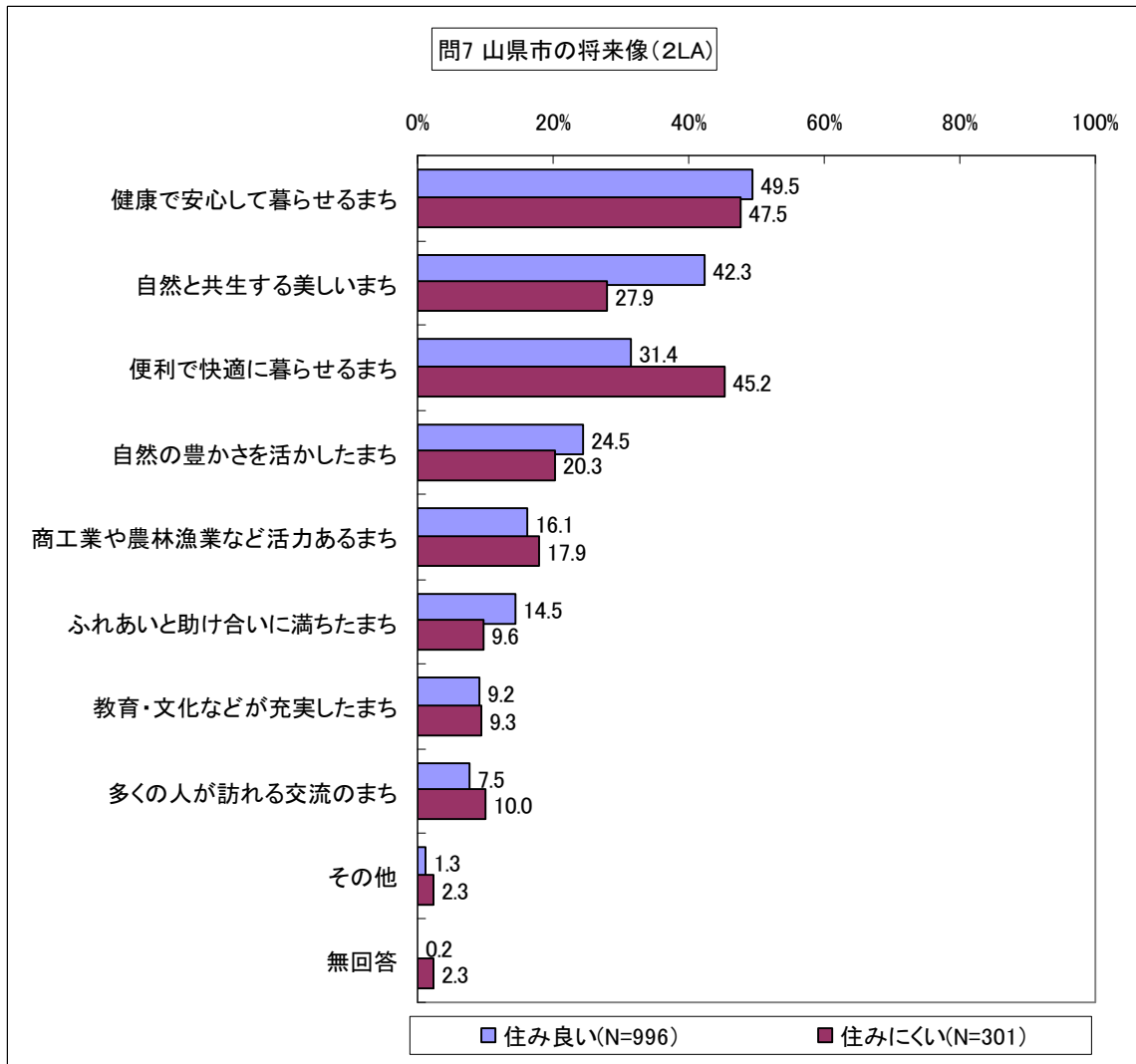
いずれの年齢階層でも「健康で安心して暮らせるまち」や「自然と共生する美しいまち」、「便利で快適に暮らせるまち」への期待は上位を占めています。

若年層ほど“便利で快適”が目立つのに対し、年齢階層が高まるにつれて、期待は“便利で快適”から“健康で安心”にシフトする傾向がみられます。



<住み良さ感別>

住み良さ感にかかわらず、「健康で安心して暮らせるまち」は第1位となっています。また、「住み良い」群は「自然と共生する美しいまち」を第2位にあげているのに対し、「住みにくい」群は「便利で快適に暮らせるまち」が第2位と高いのが特徴的です。「住みにくい」群は“暮らしの利便性・快適性”への期待がより高く、問4①の結果との整合がみられます。



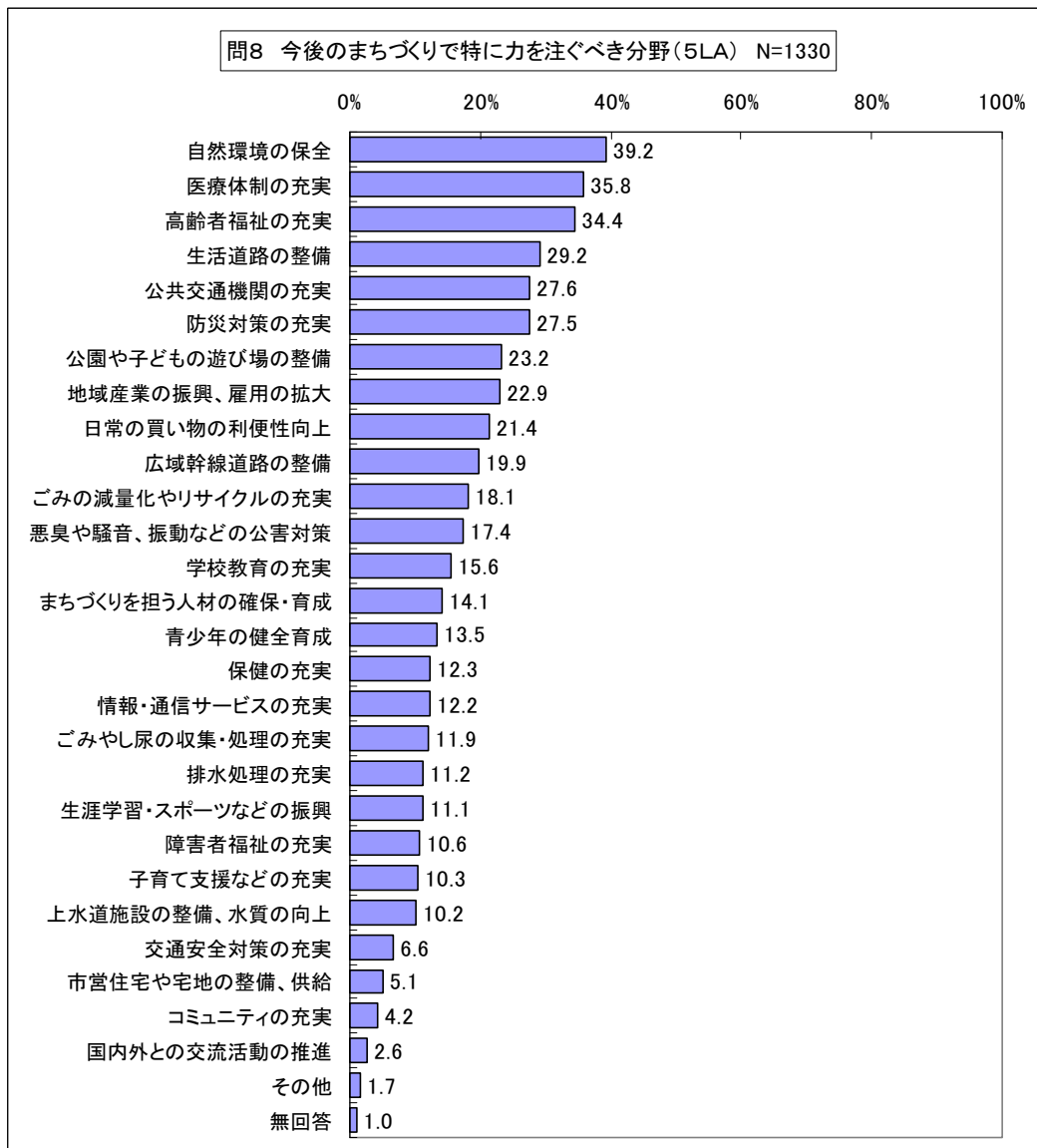
問8 今後のまちづくりで特に力を注ぐべき分野

あなたは、山県市の今後のまちづくりにおいて、特にどの分野に力を注ぐべきだとお考えでしょうか。次の中から5つまで選んで、番号に○印をつけてください。

○ 今後の重点分野は、“自然環境”や“医療”、“高齢者福祉”、“生活道路”、“公共交通機関”などです。

今後のまちづくりの重点分野ベスト5は、「自然環境保全」や「医療体制の充実」、「高齢者福祉の充実」、「生活道路の整備」、「公共交通機関の充実」で、前問との整合がみられます。

一方、「広域幹線道路の整備」はやや低くなっているほか、子育てなど“高齢者以外の福祉”や“住宅”、“交流”などはあまり目立ちません。



〈その他〉

- 下水道の整備(3)
- 防犯、安全(2)
- 市役所の人件費の削減(2)
- 生活道路の整備の格差是正
- 自然環境の保全
- 道に電灯の整備（痴漢防止）
- 役所の改革（住民サービス等）
- 老人介護
- 学校教育の充実（教員の指導等）
- バスなど公共交通機関の充実(2)
- 大規模文化センター
- 水質の向上
- 行政の収益向上（安らぎをテーマとしたサービスなど）
- 結婚相談
- 市職員の育成
- 子どもと高齢者に優しいまち
- 図書館の充実
- 各地区でワーキングエリアの確保（日常的に可能な）
- 無料で障害者保護
- 工場による公害（騒音や水質汚染）防止
- 市職員のまちづくりへの意識向上
- 市政の健全化・透明化

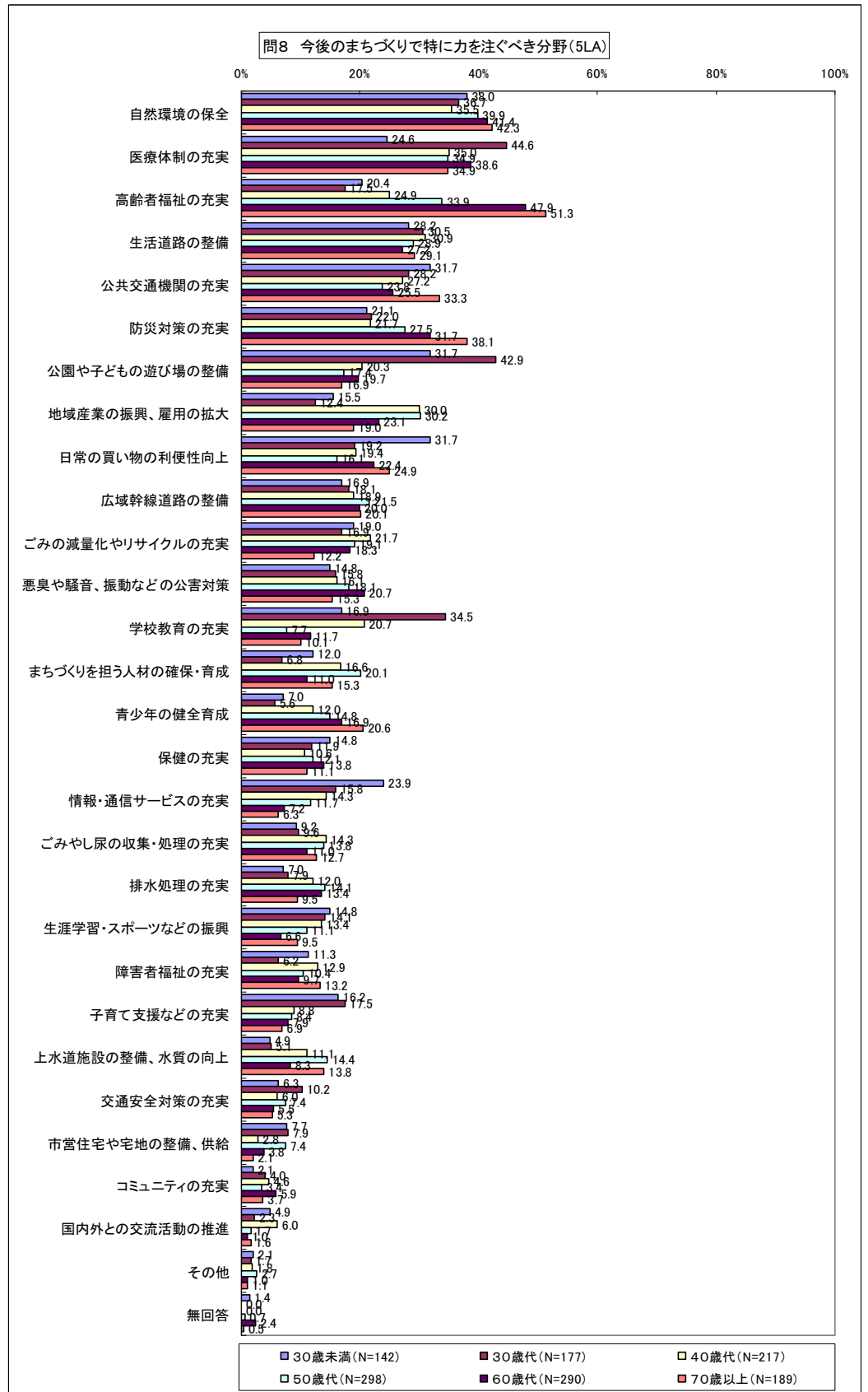
<年齢別>

年齢階層を問わず、「自然環境の保全」や“道路・交通”を重視する傾向がみられます。

年齢階層が高まるにつれて、「高齢者福祉の充実」や「防災対策の充実」のほか、「青少年の健全育成」などを重視する傾向がみられ、高齢者は暮らしの“安心・安全”への関心が高と考えられます。

一方、若年層ほど関心が高い分野は、「情報・通信サービス」や「子育て支援」などとなっており、特に「情報・通信サービス」については後述の問16の結果と整合しています。

なお、子育て世代の「30歳代」は「公園や子どもの遊び場の整備」や「学校教育の充実」への期待が高いのが特徴的です。



<地域別>

「高富地域」では「自然環境の保全」や「医療体制の充実」、「高齢者福祉の充実」が上位3位を占めています。また、「公共交通機関の充実」や「日常の買い物の利便性の向上」といった生活利便性にかかわる項目は、他地域に比べて低くなっています。

「伊自良地域」では「自然環境の保全」と「悪臭や騒音、振動などの公害対策」の2項目が目立ち、特に

“公害対策”への関心は他地域を大きく上回っています。

「美山地域」では「自然環境の保全」と並んで、「生活道路の整備」や「公共交通機関の充実」といった“道路・交通”分野への関心が高いほか、「地域産業の振興、雇用の拡大」なども3割を占め、全般的に回答は分かれる傾向がみられます。



<住み良さ別>

「住み良い」群（「住み良い」・「どちらかと言えば住み良い」と回答した人）は「住みにくい」群に比べて、「自然環境の保全」を重視しています。一方、「住みにくい」群は「生活道路の整備」や「公共交通機関の整備」、「日常の買い物の利便性向上」が目立っており、道路・交通や買い物環境など、日常生活の利便性にかかわる分野を重視しています。

豊かな自然環境が住み良さを形成する主要な要因のひとつとなっているのに対し、移動や買い物の不便さが住みにくさの背景のひとつとなっていると言えそうです。

また、“医療”や“高齢者福祉”は高齢化の進展などを背景に、いずれの群においても3割前後を占めるなど、上位を占めています。

